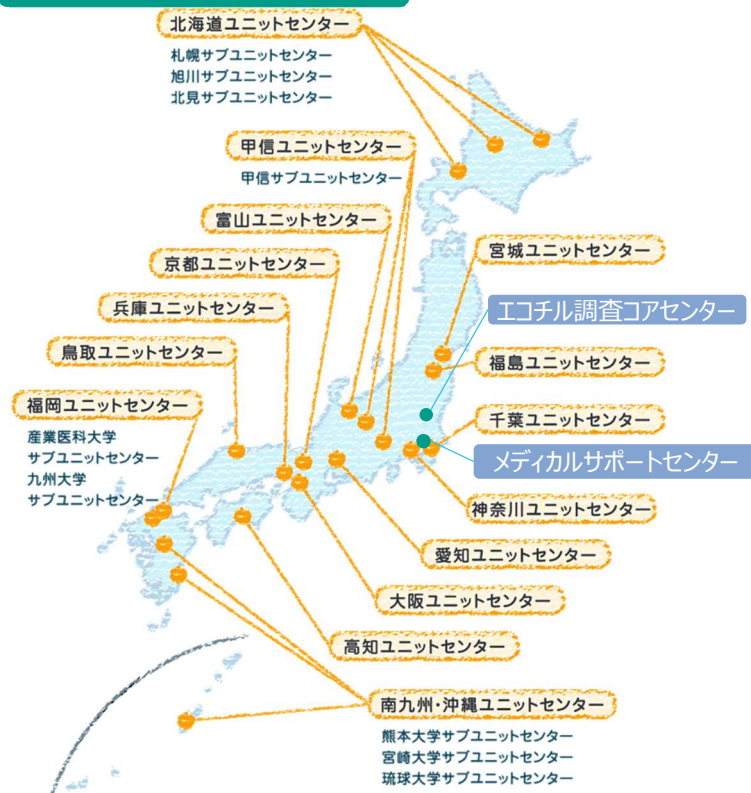


子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の概要

調査の目的・概要

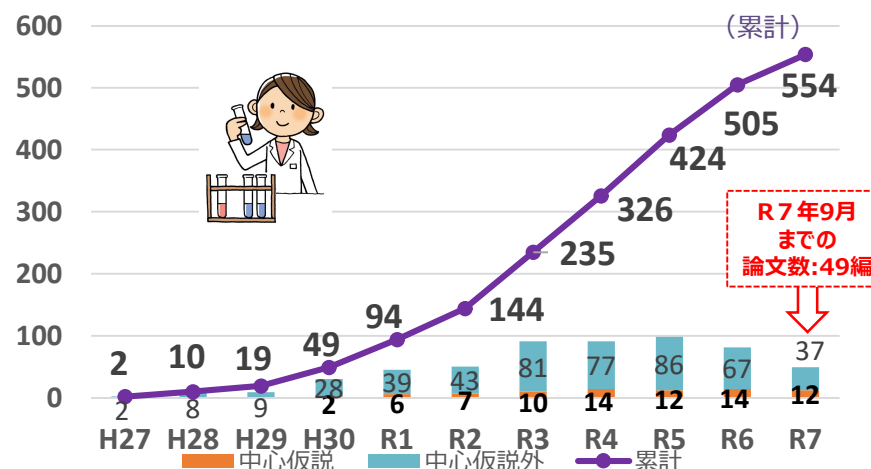
- エコチル調査の目的は、化学物質のばく露等が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているかを明らかにし、リスク管理当局や事業者への情報提供を通じて、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。
- 化学物質等の環境要因が健康に与える影響を解明するため、**約10万組の親子を対象としたエコチル調査を2010年度から実施**。現在でも**高い参加率を維持**。
- 参加者の血液等の**生体試料（約560万検体）**を採取・保存・分析するとともに、質問票等による追跡調査を実施。
- 開始時に策定した学童期（～12歳）までの基本計画を、**「エコチル調査企画評価委員会」の議論※を踏まえて改定(令和5年3月30日公表)し、13歳以後の調査を継続中**。 ※「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書(令和4年3月29日)を受けて議論
- **18歳以降の調査に関して、エコチル調査第3次基本計画案を検討中**。

エコチル調査実施体制



研究成果

- 令和7年9月末時点までの全国データを用いた論文数は**554編（中心仮説は77編）**。
- 妊婦の化学物質等のばく露と、子どもの体格やアレルギー疾患等の健康影響との関連が明らかとなっている。



* 中心仮説：胎児期～小児期の化学物質ばく露等の環境要因が、妊娠・生殖、先天性形態異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に影響を与えているのではないか。

成果発表一覧

<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/publications.html>

エコチル調査の成果の社会還元の流れ

食品安全委員会の評価書、妊婦や子どもの健康に関するガイドライン等の策定に貢献

●食品安全委員会 評価書

3件：「評価書 鉛（2021年6月）」
「評価書 アレルゲンを含む食品(卵)（2021年6月）」
「評価書 PFAS（2024年6月）」

●引用の具体例

「評価書 鉛（2021年6月）」

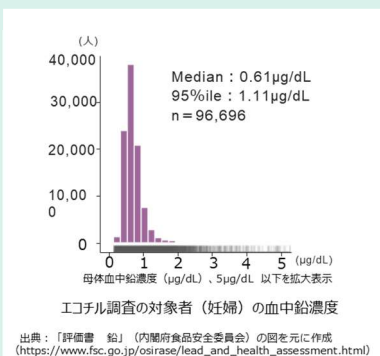
Ⅱ.食品健康影響評価 1.ばく露

（2）血中鉛濃度の概要

・我が国及び諸外国の血中鉛濃度の状況や、現在の我が国の血中鉛濃度の分布について解析結果が記載されている。

Ⅱ.食品健康影響評価 4.ヒトにおける影響（1）小児、（2）成人

・胎児の成長等への影響に関する研究結果、内分泌系／免疫系への影響に関する研究結果がエビデンスとして引用されている。



「評価書アレルゲンを含む食品(卵)（2021年6月）」

Ⅳ.食品健康影響評価 2.有病割合及び自然経過

・母親の卵白特異的 IgE 抗体価の陽性率や、食物アレルギーの有病割合、食物アレルギーの生涯有病割合といった解析結果が記載されている。

●ガイドライン等

7件：「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」
「小児気管支喘息 治療・管理ガイドライン2023」
「ASQ-3乳幼児発達検査スクリーニング質問紙」
「食物アレルギー診療ガイドライン2021」
「食物アレルギーの診療手引き2020」
「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021」
「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2024」

●引用の具体例

「小児気管支喘息 治療・管理ガイドライン」

第3章「疫学、発症の危険因子と一次、二次予防」

・日本国内の最新疫学データとして、喘息・喘鳴の有病率や危険因子の解析結果が記載されている。
・特に妊娠中の喫煙、住居環境などの環境要因が喘息発症リスクに関連するエビデンスとして引用。

日本小児アレルギー学会作成，滝沢琢己，他監修。協和企画，2023。

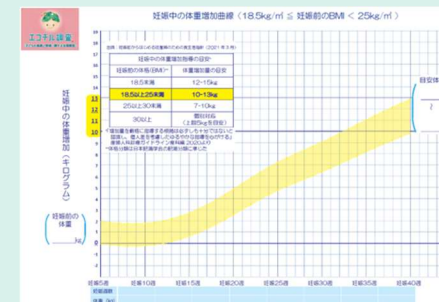


「妊娠中の体重増加曲線（妊娠前BMI別）（2021年9月報道発表）」

妊婦（約10万人）の健診情報を用いて妊娠前BMI別に4通り作成

（例）妊娠前BMI18.5～25

出典：国立成育医療研究センターホームページプレスリリースより（2021年9月28日）
(<https://www.ncchd.go.jp/press/2021/210928.html>)



子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

環境省の取組について

令和 7 年11月12日

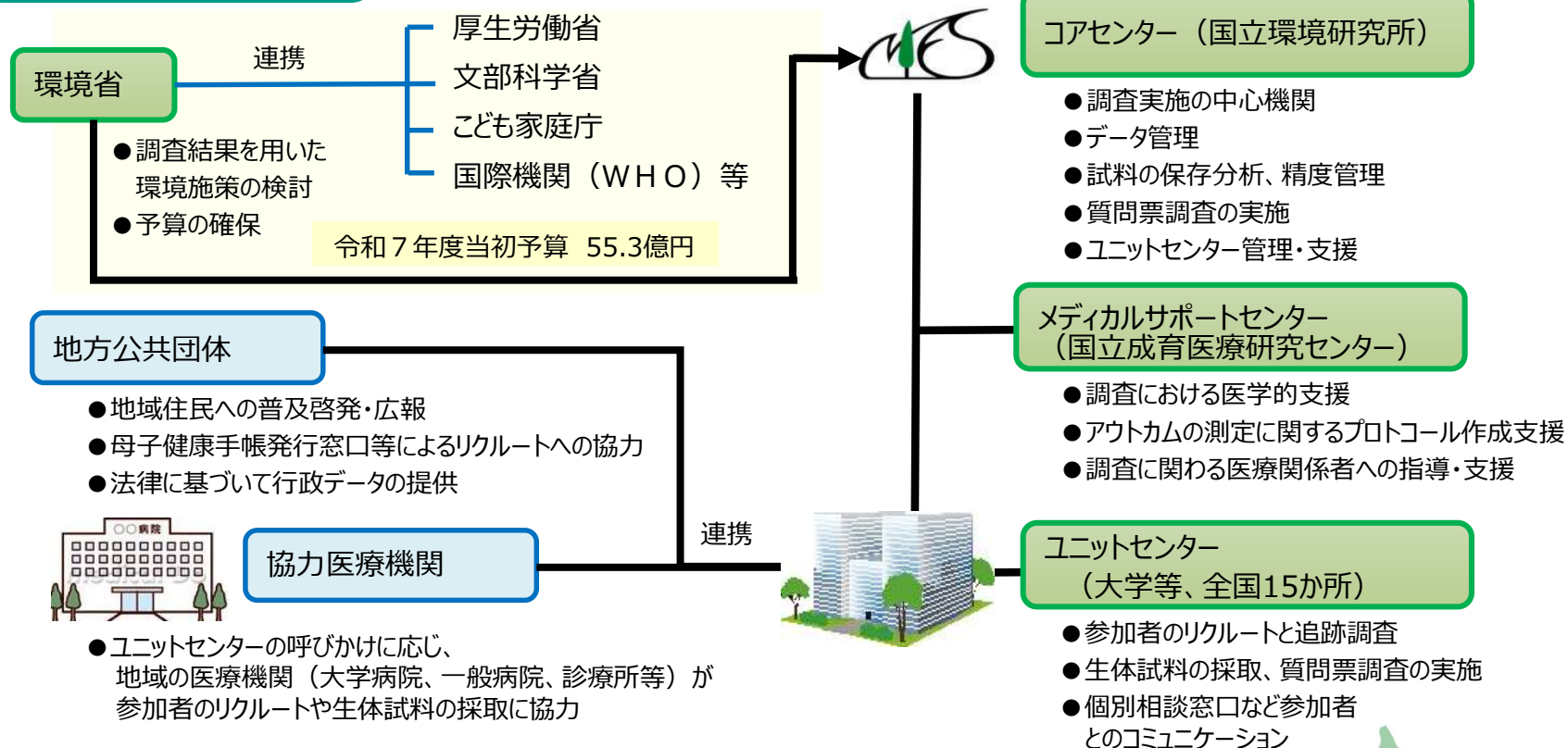
環境省 環境保健部化学物質安全課 環境リスク評価室



1. 実施体制
2. 運営体制
3. エコチル調査の予算
4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け
5. 企画評価
6. 国際連携
7. 広報活動
8. 倫理審査

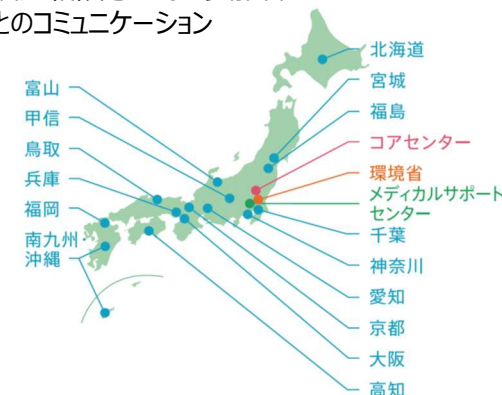
1. 実施体制

エコチル調査の実施体制



エコチル調査における環境省の役割

- 本調査で得られた成果等を用いた環境政策の検討
- 調査等を推進するための予算の確保
- 関係各省庁、国際機関等との連携
- 国民に対する広報
- 情報発信等の成果の社会還元

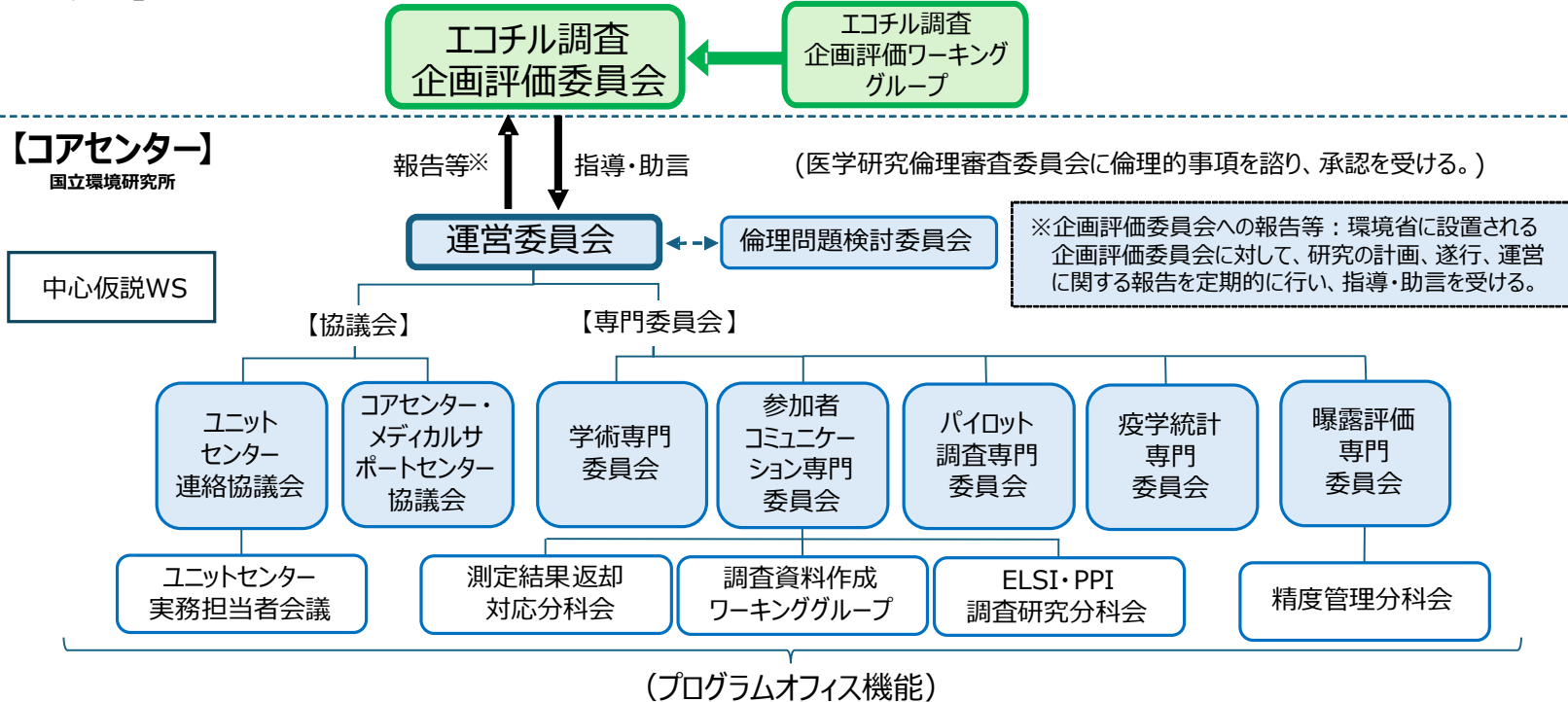


2. 運営体制

エコチル調査の運営体制

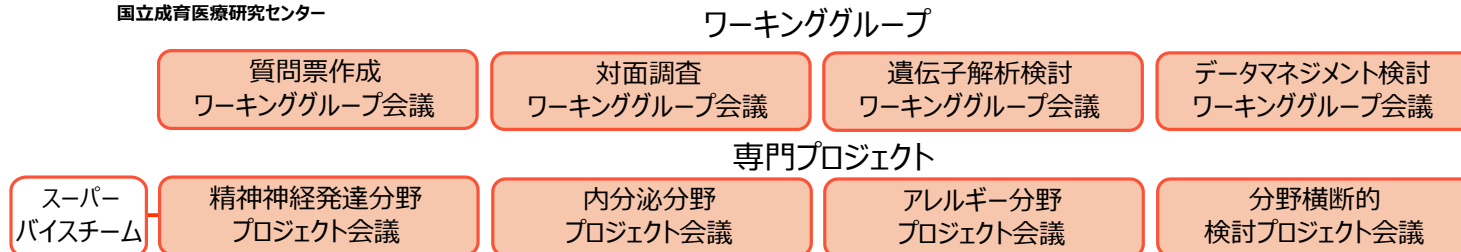
【環境省】（「疫学研究に関する審査検討会」にエコチル調査の進捗状況等について報告し、倫理的事項について助言と指導を行う。）

【コアセンター】
国立環境研究所



【メディカルサポートセンター】

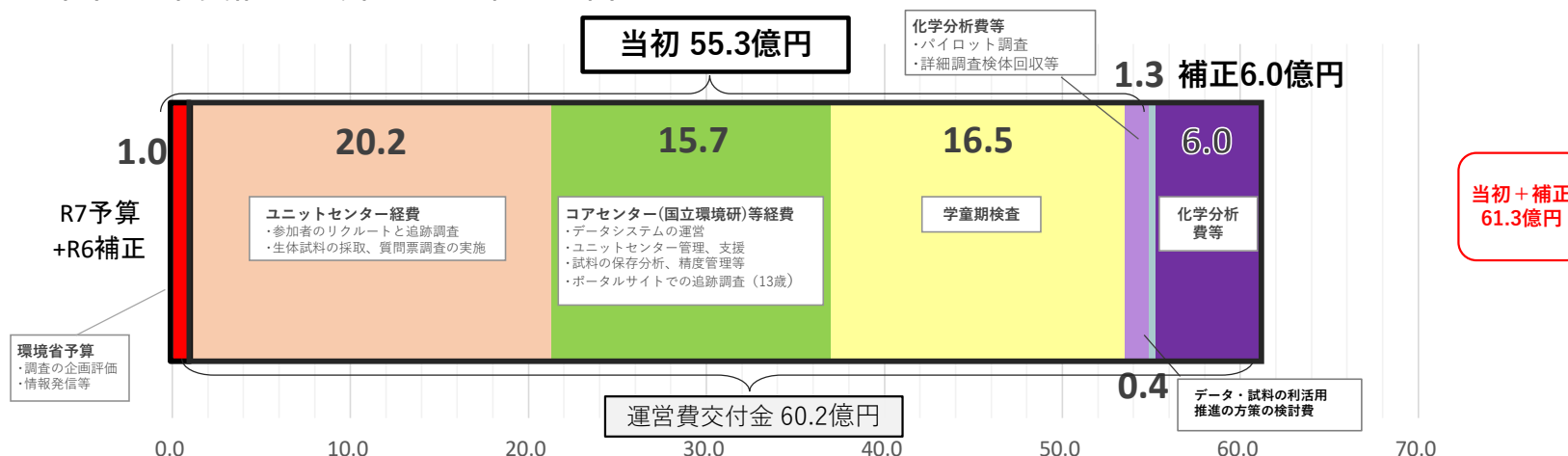
国立成育医療研究センター



3. 予算

年度当初予算等

- 令和7年度当初予算：約55.3億円を計上。
 - 追跡調査、詳細調査（環境調査、医学的検査、精神神経発達検査）、成長過程における化学物質ばく露等を評価する「学童期検査」の継続、これまでに採取した生体試料の化学分析の実施、研究成果を社会に還元するフォーラムの開催等の「広報事業」の実施予算
- 令和6年度補正予算として6億円を計上。



令和7年度エコチル調査関連予算及び令和6年度補正予算

【これまでの予算額】(億円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
当初予算	31	46	45	40	47	45	45	45	51	59	55	56	56	56	56	55
補正予算等	—	16	21	10	12	13	13	9	—	5	6	6	6	6	6	—

4. 政府戦略等におけるエコチル調査の位置付け

第六次環境基本計画（令和6年5月閣議決定）

第1部 環境・経済・社会の状況と環境政策の展開の方向

第1章 環境・経済・社会の現状と課題認識

4 環境面の主に30年の振り返りと課題認識

(5) 環境汚染及び化学物質管理の変遷と課題

(略) 国際的には、化学物質が健康に与える影響の解明に資する疫学調査がいくつかの国で実施されており、我が国において約10万組の親子に協力を得て実施されている「**エコチル調査**」は、大規模疫学調査として、その成果の活用が期待されているところである。

第3部 環境保全施策の体系

第1章 環境問題の各分野に係る施策

5 包括的な化学物質対策に関する取組

(2) 情報に基づく意思決定と行動を支援する知識・データ・情報が作成され利用が可能となりアクセスできる状態の確保

③ ばく露モニタリング

各種モニタリング等の効率的な利用を図る。具体的には、環境中の化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を解明することにより、適切なリスク管理体制を構築し、安全・安心な子育て環境の実現につなげることを目指し、**約10万組の親子を対象とした大規模かつ長期の出生コホート調査を着実に実施する。**

(3) 懸念課題への対応

人の健康の保護の観点から、その目標値や基準、管理の在り方等に関し国際的にも様々な科学的な議論が行われ、社会的に関心が高まっているPFASについては、引き続き**エコチル調査**において健康影響に関する知見を集めるとともに、一般的な国民のばく露状況の経年変化等を把握するための血中濃度調査や環境モニタリングを実施する。(略)

こどもまんなか実行計画2025（令和7年6月閣議決定）

第3章 こども施策を推進するために必要な事項

2 こども施策の共通の基盤となる取組

(1) 「こどもまんなか」の実現に向けたE B P M

(こども施策に関するデータの整備)

(略)

エコチル調査の推進

こども施策に関するデータの整備、エビデンスの構築を行うため、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにするための調査である「**子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）**」を着実に進める。得られた成果を、関係省庁や地方公共団体等に共有することで、ガイドライン・事業の策定・改定など関連するこども施策につながることを期待される。【環境省】

統合イノベーション戦略2025（令和7年6月閣議決定）

別添 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

4. 官民連携による分野別戦略の推進

(2) バイオテクノロジー

(略) 第6期基本計画期間中は、「バイオ戦略2019」を具体化・更新した「バイオ戦略2020（基盤的施策）」及び「バイオ戦略2020（市場領域施策確定版）」に基づき、(中略) バイオデータ連携・利活用ガイドラインの策定及びガイドラインに基づく取組の推進、(中略)を進めていく。

<健康・医療>

実施状況・現状分析

・化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を検討する**エコチル調査**について、令和4年度から着手した親子の遺伝子解析を着実に実施。

今後の取組方針

・化学物質等の環境要因が子どもの健康に与える影響を検討する**エコチル調査**については、令和4年度から着手した遺伝子解析を令和7年度も着実に推進。【環】

(6) 健康・医療

(略) 第6期基本計画期間中は、2020年度から2024年度を対象期間とする第2期の「健康・医療戦略」及び「医療分野研究開発推進計画」等に基づき、医療分野の研究開発の推進(略)。

5. 企画評価（令和6年度以降の取組）

企画評価委員会における検討

- 企画評価委員会においてエコチル調査の企画評価の事項に関する検討。

委員会・ワーキンググループ	検討事項
令和6年度第1回企画評価委員会 （令和6年9月4日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の令和6年度年次評価について
令和6年度評価ワーキンググループ （令和7年1月30日（木）開催）	● 令和6年度年次評価書案の作成 ● 令和7年度年次評価方法の検討
令和6年度第2回企画評価委員会 （令和7年3月5日（水）開催）	● エコチル調査の実施状況について報告 ● エコチル調査の令和6年度年次評価書について了承 ● エコチル調査の令和7年度年次評価について検討 ● 生体試料分析対象物質候補（令和8年度）について了承 ● エコチル調査基本計画の骨子について了承
令和7年度企画評価ワーキンググループ （令和7年6月26日（木）開催）	● エコチル調査基本計画の改定に向けたヒアリング ● エコチル調査の令和7年度年次評価の評価基準について検討 ● 令和7年度広報戦略の検討

エコチル調査実施機関への支援

- 調査現場における様々な課題の解決を支援するため、年次評価で収集した「PDCAサイクルに基づく優良な取組」を好事例集として取りまとめ、ユニットセンターに配布。

6. 国際連携（令和6年度以降の取組）

環境省においては、以下の取組を推進している。

1. 政府間連携の推進：各国の大規模出生コホート調査の担当部局との連携等の推進
2. 「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ（ECHIG）」の支援及び参加。

1. 政府間連携の推進

ドイツ政府	● 令和6年11月：ドイツ政府の担当者と意見交換を行い、化学物質と健康影響に関する研究協力推進に向けた連携について検討を開始することで合意。（フランス・リヨン） ● 令和7年9月：政府間連携の推進の継続協議について合意
フランス政府	● 令和6年11月：フランス政府保健省の担当者と意見交換を実施し、化学物質と健康影響に関する研究協力推進に向けた連携について検討を開始することで合意。（フランス・パリ） ● 令和7年9月：フランス政府国際連携担当者と意見交換を実施。両国の出生コホート連携について、継続した協議をすることに合意。

2. 環境と子どもの健康に関する国際作業グループ（Environment and Child Health International Group : ECHIG）

目的： メンバー間における情報交換、研究プロセスのハーモナイゼーションにより、調査手法の比較、データ統合解析調査結果の複合解析（combined analysis）、データ・プーリングの手順を開発すること

参加者： 日本、ドイツ、ノルウェー、デンマーク、フランス、中国、米国、韓国の大規模コホート調査等に所属する専門家
世界保健機関（WHO）の国際がん研究機関（IARC）が事務局として参加

取り組み：	ECHIG定例会議	隔月で開催されるWEB会議に参加、政府としての意見
	ECHIG 対面会合	● 令和6年11月：第19回環境と子どもの健康に関する国際作業グループ会議に現地出席し、エコチル調査の取組の報告や意見交換を実施。（フランス・リヨン） ● 令和7年9月：第20回環境と子どもの健康に関する国際作業グループ会議に現地出席し、エコチル調査の取組の報告や意見交換を実施。（フランス・リヨン） ● 令和7年9月、10月：フランス公衆衛生研究所の理事長および公衆衛生担当部局長との意見交換。国立環境研究所とフランス公衆衛生研究所との研究協力覚書締結に向けた協議の推進に合意。併せて両国間政府レベルでの連携推進に合意。（フランス・パリ、日本）

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

- 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針」（※）及び同指針に基づく広報戦略を踏まえ、調査対象者や医療機関・研究者に加えて、広く一般の方々にエコチル調査を理解してもらい、調査参加者に長期にわたる追跡調査に継続して参加してもらえるような意識を醸成すること及び調査成果の正確な情報発信・社会還元を図るため、様々な広報活動を実施。

※令和5年3月改定（エコチル調査戦略広報委員会／参加者コミュニケーション専門委員会）

シンポジウム等の開催

- 第14回エコチル調査シンポジウム
- 第1回エコチル調査全国フォーラム

成果の情報発信

- ホームページ等による情報提供
- 論文報道発表の公表
- パンフレット等の配布

その他の広報活動等

- 動画配信（13歳以降の調査の推進に向けた取組）
- 科学館等における展示物（ケミカルパズル等）の活用
- エコチル調査サポーター登録・メールマガジン配信
- 学会での講演
- 外部との連携
- リスクコミュニケーション研修
- 広報活動の効果測定
- 広報戦略指針を踏まえた今後の広報活動の検討
- ホームページのリニューアルの準備

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

シンポジウム等の開催



■ 第14回エコチル調査シンポジウム

日程：令和7年3月2日（日）13:00～16:15

会場：なんばスカイオコンベンションホール（大阪市）

参加者：のべ250名来場

プログラム詳細：https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/2024/14th_symposium.html



- エコチル調査の取組や調査で得られた成果等を分かりやすく紹介し、エコチル調査について多くの方々に理解を深めていただくとともに調査参加者の継続意識の向上につなげることを目的として、年1回、シンポジウムを開催。
- 令和6年度は、初めて関西圏（大阪市）で開催（東京以外で初）。（大阪、京都、兵庫ユニットセンターに近い）
- 見る聞くだけでなく、“発見・学習”につながる工夫と仕組み作りを実践（モノづくり体験、分析体験、クイズや質問コーナーなど）。体験型展示の充実。最後まで参加いただく工夫として最後に抽選会を行い国立環境研究所の見学会に招待。



シンポジウムのゲストによるエコチル調査の紹介動画を公開



調査参加者のスタッフ体験
（ボランティア証明書授与）



エコチル調査ワークショップ
（分析装置のしくみ、分光器制作）

【国立環境研究所見学会】



エコチル調査ワークショップ

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

全国フォーラムの開催

子どもたちが生きるのは、10年後、50年後、100年後の世界。見守るのは、その先の地球。どんな環境を残し、どんな世界を生み出すべきか、今を生きる「未来たち」と一緒に考えます。

今わたしたちが生きている環境は未来のきみにも笑顔を見せてくれるかな？

参加無料

第1回
エコチル調査全国フォーラム
2024 11.1(土)・2(日) 9:30-17:00

会場 伊藤国際学術研究センター・山上会館（東京大学本郷キャンパス内）
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

●基調講演
講師 吉野彰氏 旭化成株式会社名誉フェロー
ご自身の研究ならびにエコチル調査への関係について講演いただきます。

●エコチル調査学術シンポジウム
エコチル調査に関連する種々の研究者の方々にご講演いただきます。

●エコチル調査研究発表会
小・中・高校生が環境と健康についての学習や研究の成果を学術大会のスタイルで発表します。

●エコチル調査書道展
エコチル調査に関連する展での書道作品を展示します。書道家による書道作品の展示も行います。

●エコチル調査短歌展
エコチル調査をテーマにした短歌作品を展示します。

●かるた大会 当日参加OK
・エコチル調査かるた大会
・小童百人一首短歌かるた大会/かるた参観
※短歌（10）もはかるる会

主なる方、各団体の方にもご参加を歓迎いたします！
右記の二次元バーコードから公式WEBサイトの参加登録フォームに進み、必要事項を記入の上、お申し込みください。
大募集申込締切は10月31日（金）です。

エコチル調査とは
正式名称は「子どもの健康と環境に関する全国調査」で、2011年に環境省が始めた大規模な調査プロジェクトです。約10万組の親子のみなさまに協力のもと、環境中の化学物質が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、子どもたちが安心して健やかに育つ環境を作るために活用しています。

参加費	申込期間	作品募集
無料	9月5日(金)～9月10日(水)	9月10日(水) 作品募集
無料	9月11日(木)～9月14日(日)	9月14日(日) 作品募集
無料	9月15日(月)～9月16日(火)	9月16日(火) 作品募集
無料	9月17日(水)～9月18日(木)	9月18日(木) 作品募集

主催 環境省 後援 文部科学省 協力 (一財)日本書道美術院 (一社)現代歌人協会 (一社)全日本かるた協会
問合せ・送付先 エコチル調査全国フォーラム運営事務局(株式会社PCO内)
〒930-0004 富山県富山市坂橋通り2番25号 E-mail: eco-child@pcojapan.jp TEL: 076-461-7028

※メディアでも紹介されました。

子どもが育つ環境と健康との関連を調べた研究成果伝える催し | NHKニュース | URL: <https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014965971000>

■ 第1回エコチル調査全国フォーラム

【日程】 令和7年11月1日（土）、2日（日）

【会場】 伊藤国際学術研究センター・山上会館

※東京大学 本郷キャンパス内

【目的】

- 全国規模のイベントを通じて、子ども達に「環境保健を知るための場」、「自己表現の場」、「様々な未来の可能性を知る場」を提供。
- 子ども達自らが、エコチル調査結果等を用いた研究発表を行なう事によって科学的思考を育む。
- エコチル調査に関連するテーマの書道、かるた、短歌の公募を通して、「エコチル調査の意義」を国民に広める。

【主な対象】

- 小学生、中学生、高校生およびその保護者の世代

【他省庁・関連団体との連携】

- 後援：こども家庭庁、文部科学省
- 協力：(一財)日本書道美術院、(一社)現代歌人協会、(一社)日本かるた協会

【詳細】 https://smartconf.jp/content/eco_child

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

【第1回全国フォーラムの主な内容】 ※「科学的思考を育む」場と、「子どもたちの自己表現」の場づくり

■ 基調講演

吉野彰氏（旭化成株式会社 名誉フェロー）による講演

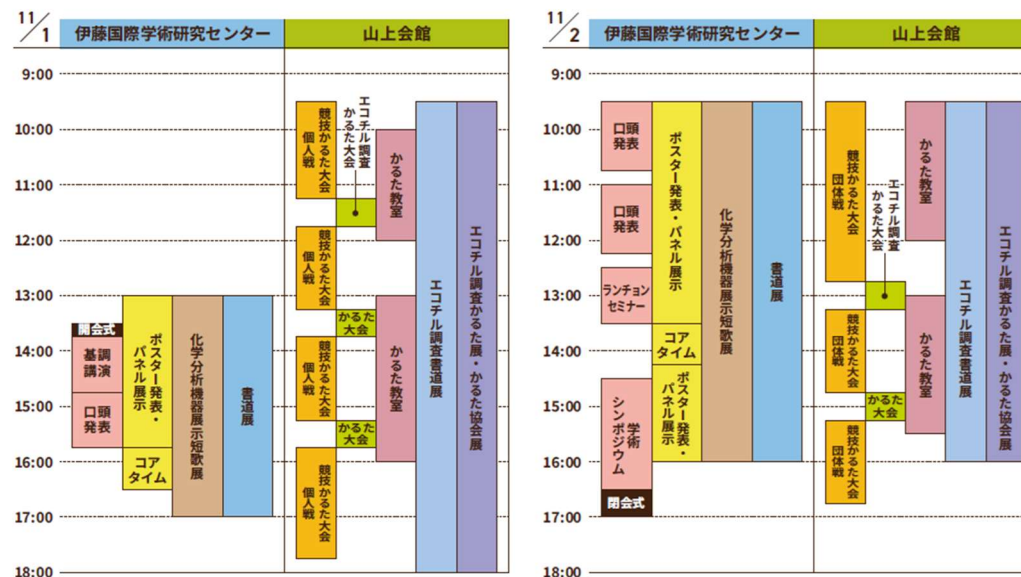
■ エコチル調査学術シンポジウム

エコチル調査に関連する領域の研究者による講演

■ エコチル調査研究発表会

小・中・高校生が環境と健康についての学習や研究の成果を学術大会スタイルで発表

タイムスケジュール



エコチル調査をテーマにした「書」「かるた」「短歌」を公募、展示。子どもたちが参加できる、かるた大会・教室を実施。



エコチル調査書道展

入賞作品は会場で展示するほか、公式サイトでオンライン展示も行います。



小倉百人一首競技かるた大会

個人戦・団体戦を行います。また、エコチルかるた教室も開催します。



エコチル調査短歌展

エコチル調査をテーマに募集した短歌を展示。選ばれた短歌は来年「十六人一首競技かるた大会」で使用されます。※順次、短歌を増やし、令和13年度の「エコチル調査百人一首」完成をめざします。



エコチル調査かるた大会

エコチル調査にちなんだオリジナルかるたを募集。完成したかるたで大会を開催します。



エコチル調査かるた展

みなさんからご応募いただいたオリジナルかるたの中から、上位に選ばれた力作を会場で展示します。



エコチル調査研究発表

「環境と健康」をテーマに、本格的な学会スタイルで研究成果の発表を行います。（口頭発表 14 演題 ポスター発表 38 演題）

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

成果の情報発信

■ ホームページ等による情報提供

- エコチル調査の論文を一般向けにわかりやすく伝えるため、平成30年6月から和文抄録付きの成果発表一覧を掲載、随時更新。
- 中心仮説に関する論文の報道発表は、新着情報としてトップページに掲載。
- シンポジウムの動画や資料、対話事業の資料を掲載。

■ 論文報道発表の公表

- 中心仮説に関する論文発表時に、大学や国立環境研究所が報道発表し、環境省のホームページでもお知らせ。
- 正確な情報伝達のため、平成30年度に戦略広報委員会で報道発表のプロセスと資料の様式、チェックリストを作成し、関係者に周知して運用。

■ パンフレット等の配布

- エコチル調査の概要を解説したパンフレットの増刷・配布。
- 令和6年4月に更新した「成果紹介パンフレット」を、希望するユニットセンターに配布。シンポジウム、学会でも配布。



環境省ホームページの発信例

No.	論文	著者	
524	突発性発疹発症時期と熱性けいれんの関係	Hisao Okabe, et al.	PLOS ONE 8:20(3) PubM
523	母親が子どもと一緒に過ごす時のデジタルメディア使用時間と2歳児の神経発達との関連：エコチル調査	Yuka Ogata, et al.	Scientific Data Mar 24, 2024 PubM

<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/results/publications.html>



成果紹介パンフレットの例

<https://www.env.go.jp/content/000215015.pdf>

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

その他の広報活動等①

■ 動画配信（13歳以降の調査の推進に向けた取組）

- 調査の概要や継続の意義等に関する動画をYouTubeの環境省動画チャンネルで配信（～2025年3月）。
- 島津製作所の田中耕一さんから、エコチル調査への動画メッセージをいただき、YouTubeの環境省動画チャンネルで配信（2025年10月～）。



■ 科学館等における展示物（ケミカルパズル等）の活用

- 調査の認知度向上と内容理解促進を目的に、全国の科学館に貸出。
- 調査対象地域等においてエコチル調査関係者へ展示物の貸出。
- 貸出数等
【令和6年度】 科学館6箇所：富山県立イタイイタイ病資料館（富山市）、松本市教育文化センター（松本市）、こども科学センター・ハチラボ（東京都渋谷区）など
ユニットセンター1箇所：富山ユニットセンター
その他：第14回エコチル調査シンポジウム（大阪市）で活用
【令和7年度】 科学館5箇所：向井千秋記念子ども科学館（館林市）、IMAGINUS（東京都杉並区）、日立シビックセンター科学館（日立市）など（予定含む）
自治体1箇所：伊丹市
その他：環境省こども霞が関見学デー（環境省）で活用



■ エコチル調査サポーター登録・メールマガジン配信

- 調査に対する社会全体の理解と応援を得る目的で、サポーター登録制度を設け、登録していただいた方には最新情報を掲載したメールマガジンを配信。
- 令和7年10月31日時点でサポーター数は約3,600人、メールマガジンは通算118号。

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

その他の広報活動等②

■ 学会での講演	● 令和6年10月30日 第83回日本公衆衛生学会総会で講演
■ 外部との連携	● 成果に係る報道発表等の情報を関係行政機関、関連学会に情報共有。 ◆ 関係行政機関： 内閣府、消費者庁、こども家庭庁、文部科学省、スポーツ庁、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省内 ◆ 関係学会： (公社)日本産科婦人科学会、(公社)日本産婦人科医会、(公社)日本小児科学会、(公社)日本小児保健協会、(公社)日本小児科医会、(一社)日本小児期外科系関連学会協議会、(一社)日本学校保健学会 ● エコチル調査に関連する様々な業種の企業にエコチル調査の概要説明を行うとともにエコチル調査との連携等について意見交換を実施。 ● 文部科学省地域学習支援室等とエコチル調査の広報に関する意見交換を実施。
■ リスクコミュニケーション研修	● エコチル調査ユニットセンターの担当者を対象としたリスクコミュニケーション研修を開催（令和7年2月18日）。 ● 参加者64人。
■ 広報戦略指針を踏まえた今後の広報活動の検討	● 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針（令和5年3月改定）」及び同指針に基づく広報戦略を踏まえて今後の具体的な広報活動に関する戦略案を検討。
■ ホームページのリニューアルの準備	● エコチル調査ホームページリニューアルに向けて、リニューアル方針を検討。

7. 広報活動（令和6年度以降の取組：広報戦略指針に基づく活動展開）

その他の広報活動等②

■ 広報活動の効果測定

- エコチル調査に関する報道、SNS投稿等のモニタリング及び分析の実施。

Webニュース・新聞・雑誌・テレビモニタリング

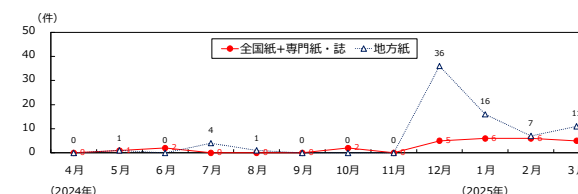
- Webモニタリング（ニュースサイト等）、新聞・雑誌・テレビ記事検索により、エコチル調査の露出度を測定。
- 令和6年度の件数（令和6年4月1日～令和7年3月31日）
新聞・雑誌：103件 / テレビ：0件 / Webサイト：533件

SNSモニタリング

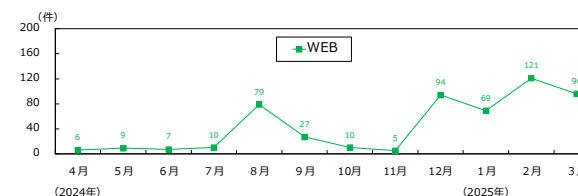
- 令和5年度より、X（旧Twitter）の全公開ツイートから、「エコチル」、「子どもの健康と環境に関する全国調査」を含むポスト、リポストを抽出。
- 令和6年度の件数（令和6年4月1日～令和7年3月31日）
エコチル調査に関するポスト件数：562件※

※リポスト数を除いた件数

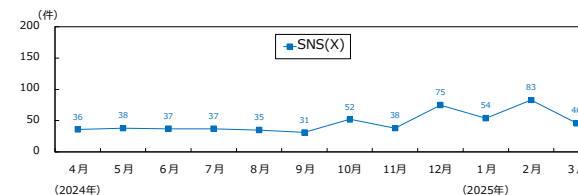
エコチル調査の新聞・雑誌の記事掲載件数の推移



Webニュースサイト等の記事掲載件数の推移



SNS（X）のポスト数の推移



8. 倫理審査

- 令和6年度の「第1回疫学研究に関する審査検討会」で、国立環境研究所エコチル調査コアセンターが調査の進捗を報告。
- 本年度も、「疫学研究に関する審査検討会」において、エコチル調査の進捗状況等について報告を行う。